

現場見学会（四国支部）の報告

地域活動部会四国支部では、2019.11.22 に国土交通省四国地方整備局により建設中の「日下川新規放水路工事」（呑口側）の現場見学会を実施いたしました。

当工事は、高知県を流れる仁淀川支流・日下川の洪水対策として建設されているものです。近年、全国で異常な豪雨による河川氾濫を耳にしますが、日下川は以前から河川の氾濫に悩まされてきました。当トンネルは、その対策として 3 本目のバイパス水路トンネルとなります。まさにホットな話題提供となりました。

当トンネルは、直径 7m（内空）のインバートコンクリート付き標準馬蹄形断面です。当日は掘削工のピークを迎えておりましたが、最新技術を駆使して小断面の長距離トンネルを安全かつ効率よく施工されておりました。

工事の概要は次の通りです。

1. 工事名 : 平成 29-32 年度 日下川新規放水路工事
2. 施工者 : 鹿島建設株式会社
3. 発注者 : 国土交通省 四国地方整備局
4. 工事場所 : 高知県吾川郡いの町大内地先～高岡郡日高村沖名地先
5. トンネル概要 :

- ・延長 呑口側 2.85 km（全長 5.3 km） 発破掘削 NATM
- ・（地質）砂岩、頁岩互層
- ・（主な特徴）小断面、長距離、全線インバートコンクリート他

6. 実施日程 11 月 22 日（木）13:30～16:30

当日は定員 20 名様でご案内しましたが、高い人気に応え、現場のご理解を得て 24 名の方々にご参加いただきました。

事務所にて 30 分ほどかけて工事説明を受けた後、現場に向かいました。すでに半分近く掘削が進んでいたため、現場で手配していただいたマイクロバス 4 台にて切羽に向かいました。掘削には全自動ジャンボを用いており、穿孔作業と同時に各種穿孔データが自動で事務所に転送されて切羽地山評価・前方評価にも採用されていました。またバックホウ類には周辺検知センサやカメラが取り付けられており、作業員の安全確保に高い配慮が施されていました。同様の様々な配慮により、安全に掘削作業が進められていました。

坑口ヤードは地元対策のため、全周を防音塀で囲われておりました。また、民家近接部では各種の制御発破技術（電子雷管 eDev など）を採用し、発破騒音・振動に配慮しながら工事を進めていました。とにかく新技術のオンパレードで圧倒されるばかりでした。

見学会終了後、希望者で高知市内にて懇親会を持ちました。高知の酒と肴、楽しき仲間、有意義なトンネル技術情報交換会になったことは言うまでもありません。トンネル仲間っていいですね。

地域活動部会 四国支部 支部長
新日本開発(株) 福家 佳則



終了後に集合写真



JV 事務所にて工事説明(松田所長他、現場の皆様)



切羽の状況



新ロックボルト引き抜き試験機のデモ